

序

身延山において永年にわたり、宗学を講じて来られた室住一妙先生は、芽出度く古稀を迎えられ、此の程、祝賀会の開催と、「古稀記念論文集」が刊行されることになった。先生はもとより、大学にとつても、又身延山にとつても大いに喜ばしいことである。

室住先生は昭和九年身延山に来られ、当時の祖山学院に教鞭をとられてより以来、今日に至るまで、四十余年間、ひたすら宗学の教授として、数多くの宗門子弟の教育に尽粹して来られた業績は、まことに顕著なものがあるといえる。現在、宗門において身延山の学園から巣立っていった各聖が、目覚ましい活躍をしておられるが、その大部分の方々は、在学中に先生の嚆矢にふれ、宗学を身につけられた方々である。

先生の宗学は、「純粹宗学」と称されている如く、純粹に宗祖の教えに直参しようとする信行の上に立った宗学であり、単なる世間一般の「学」としての「宗学」とは異なるところがあったように思う。いわゆる「行学は信心より起るべく候。」と云う祖意を体し、真剣に祖書の研鑽を積まれ、「仏になるための」講義を続けて来られた。

また先生は、昭和四十三年に前学頭であった故松木本興先生のとを受け継いで、学頭の要職につかれ、学園の維持・発展にも心を用いて来られ、今日に至っている。

先生の宗学に対する情熱が、今後ますます盛んとなり、更に円熟を加え、醍醐味の教えを後進の上に、あまねく垂れ給うことを願ひ、先生の法体いよいよ健勝ならんことを念じ、以て記念論文集公刊の序に代える次第である。

昭和五十年七月十日

身延山短期大学々園

理事 小 林 顕 栄
監 小 林 顕 栄